



「道の駅20歳」の素顔 風景街道との連携

「日本風景街道」は、2006年に登録が始まった新たな道路空間づくりの取り組みで今年3月現在、全国に127ルートがある。国土交通省は日本風景街道をもっと知ってほしいとロゴマークを作成。地域の取り組みを盛り上げて地域活性化につなげ、観光立国の引き金にしたいと「道の駅」と「風景街道」の連携に期待する。

日本風景街道127ルートのロゴマークを作成 広域ルートの情報発信基地で「道の駅」期待



「日本風景街道」は住民やNPO、企業など地域が主体となり、行政と連携して風景や自然、歴史、文化などの地域資源を活かした「美しい景観づくり」や「活力ある地域づくり」に取り組み活動で、「道の駅」は広域ルートの情報発信基地としての役割を期待される。

活動する人たちの心は「次世代が希望を持てる地域でありたい」「活動仲間を増やしたい」「地域の人たちと共に元気になる」「地域の良さを再発見し、訪れる人にも楽しんでほしい」と共通しており、何より「自分たちの地域の風景を美しくしたい」と願っている。

☆ ロゴマークは「コシノジュン」さんが手がけ、日本の象徴「富士山」をモチーフに、歴史や文化が道路を介して未来へ続いていくことを表現した。

「ぐるり富士山」看板撤去や集合化で環境美化 「なごみの伊豆」寄り道ステーションを常設化

本紙は順次、個性的な取り組みを連載する。ロゴマークにちなみ静岡県の「日本風景街道」から紹介する。

同県内には優美で雄大な富士山麓を巡る「ぐるり・富士山風景街道」／開国の歴史や文学作品の舞台、いで湯の里「なごみの伊豆 なごみの道」／浜名湖八景を自転車でも楽しめる「浜名湖サイクリングロード」／6つの宿場と2つの峠をつないだ東海道「駿河2峠6宿風景街道」／南アルプスの自然が楽しめる大井川流域「南アルプスへの道・お茶の道」の、5つの「風景街道」がある。

富士宮市朝霧地区では「朝霧地区道路景観形成ワークショップ会議」や「ぐるり富士山風景街道アクションネットワーク」などが中心になり、市や県と一緒に眺望を阻害している7基の看板を撤去。所有者の特定や撤去の承諾を得る交渉に苦労しながら看板の集合化や、住民が「ブチメンテナンス」と呼ぶガードレールの塗り替え、環境美化活動など景観を守る活動を展開している。

「なごみの伊豆」なごみの道」風景街道は、伊豆半島の東海岸を通る国道135号、西伊豆を通る136号、半島中央を通る414号をつなぎ、半島をくまなく回るルート。修善寺、熱海など風光明媚ないで湯の里として親しまれ、川端康成「伊豆の踊り子」など多くの文学作品を生み、幕末の開国に重要な役割を果たした下田など歴史的舞台でも知られる。このルートにも「伊豆のへそ」「伊東マリントウ」や「天城越え」開国下田みなど「下賀茂温泉 湯の花」「花の三聖苑 伊豆松崎」の6つの道の駅がある。

「ぐるり富士山風景街道」は国道1388号、1399号、469号をつなぎ、静岡県と山梨県を巡る富士山一周約1800キロのルート。春夏秋冬さまざまな富士の美しさを眺め、富士五湖や白糸の滝など名所も多い。このルートには「朝霧高原」「すばしり」「ふじおやま」「富士」「富士川楽座」の5つの道の駅が点在する。

両県にまたがるルートマップが無かったルート登録直後、道の駅「朝霧高原」の志村正信支配人が手書きのルートマップを作った情報コーナーに掲示し、コンシェルジュの役割を担った。朝霧高原の火入れ、看板撤去と集合看板の設置、歩き道の整備など、地域住民、NPO、行政が一体になって活動を続けるが、いつも『朝霧高原』が活動拠点の一つだ。

文化遺産登録まであと一歩。「ぐるり・富士山風景街道」では、登録に備えて富士山麓に点在する世界遺産を巡る「ぐるり・富士山トレイル」富士山古道」の整備に取り組み始めている。

NPOや関係市町で作る下田街道活用推進協議会などを中心に、郷土史家や観光協会、地域住民などの意見を踏まえて自然や温泉、歴史、見どころやうまいものなどの寄り道ポイントを設定。葦山、大仁、天城湯ヶ島の3地区の「寄り道周遊マップ」を作成するなど、様々なアイデアを試行。また、風景街道の先進地北海道とも交流し、活動を発展させたいと考えている。

「なごみの伊豆」なごみの道」は国道1388号、1399号、469号をつなぎ、静岡県と山梨県を巡る富士山一周約1800キロのルート。春夏秋冬さまざまな富士の美しさを眺め、富士五湖や白糸の滝など名所も多い。このルートには「朝霧高原」「すばしり」「ふじおやま」「富士」「富士川楽座」の5つの道の駅が点在する。

富士山はユネスコの世界

新たな余裕・ゆとりにつなげ

「伊豆縦貫自動車道」の整備